



2017年3月期第2四半期 決算説明会

東京製綱株式会社

(TOKYO ROPE MFG. CO., LTD.)

2016年11月29日

目次

1. 2017年3月期第2四半期決算概要

2. 2017年3月期見通し

3. 事業別主要施策の進捗状況

1. 2017年3月期第2四半期決算概要

2. 2017年3月期見通し

3. 事業別主要施策の進捗状況

2017年3月期第2四半期 決算ポイント

海外エレベータロープは堅調、海外防災製品およびCFCCが伸び悩む一方、ワイヤソーの売上計上により増収増益

売上高 321億41百万円〔前期比 +3.6%〕

16年3月期に納入したワイヤソーを期ズレ計上したことにより増収

営業利益 16億84百万円〔前期比 +11.7%〕

ワイヤソー売上、海外エレベータロープの増収により増益

**親会社株主に帰属する
四半期純利益** 8億10百万円〔前期比 +31.7%〕

前期対比では、為替差損：△1.2億円、遊休不動産の売却損および生産設備の減損△1.2億円があるも、営業利益増により最終増益

2017年3月期第2四半期 決算ハイライト

(金額:百万円)

	16年3月期第2四半期		17年3月期第2四半期		前年同期比	
	金額	(売上高比)	金額	(売上高比)	金額	(増減比)
売上高	31,036	—	32,141	—	+1,105	(+3.6%)
営業利益	1,507	(4.9%)	1,684	(5.2%)	+177	(+11.7%)
経常利益	1,041	(3.4%)	1,235	(3.8%)	+194	(+18.6%)
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	615	(2.0%)	810	(2.5%)	+195	(+31.7%)

セグメント別の状況(売上高)

鋼索鋼線：海外、繊維ロープ好調も、国内鋼索鋼線市況悪化により微減収

スチールコード：ワイヤソーの売上計上により大幅増収

開発製品：海外の防災製品およびCFCCのプロジェクト期ズレにより減収

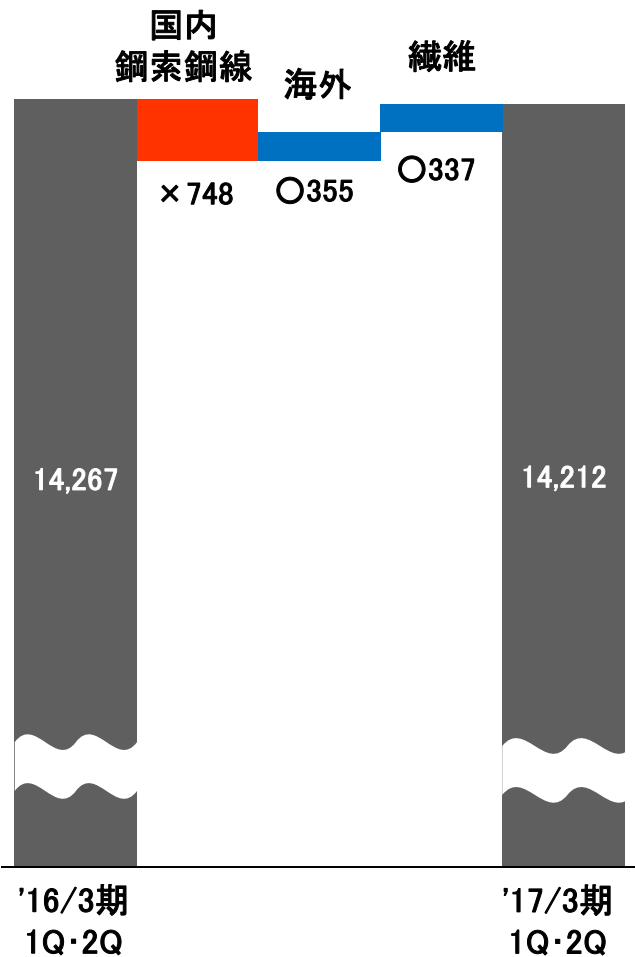
(金額:百万円)

	16年3月期第2四半期		17年3月期第2四半期		前年同期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	金額	(増減比)
鋼索鋼線	14,267	(46.0%)	14,212	(44.2%)	△55	(△0.4%)
スチールコード	6,711	(21.6%)	8,583	(26.7%)	+1,872	(+27.9%)
開発製品	6,101	(19.7%)	5,344	(16.6%)	△756	(△12.4%)
不動産	632	(2.0%)	661	(2.1%)	+29	(+4.6%)
その他	3,323	(10.7%)	3,339	(10.4%)	+16	(+0.5%)
合計	31,036	(100.0%)	32,141	(100.0%)	+1,105	(+3.6%)

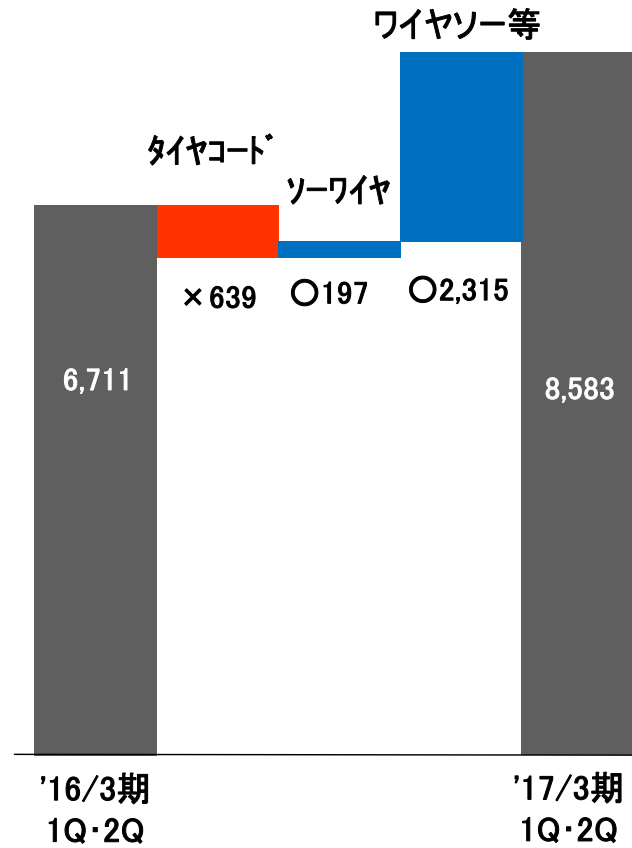
増減要因分析(売上高)

(単位:百万円)

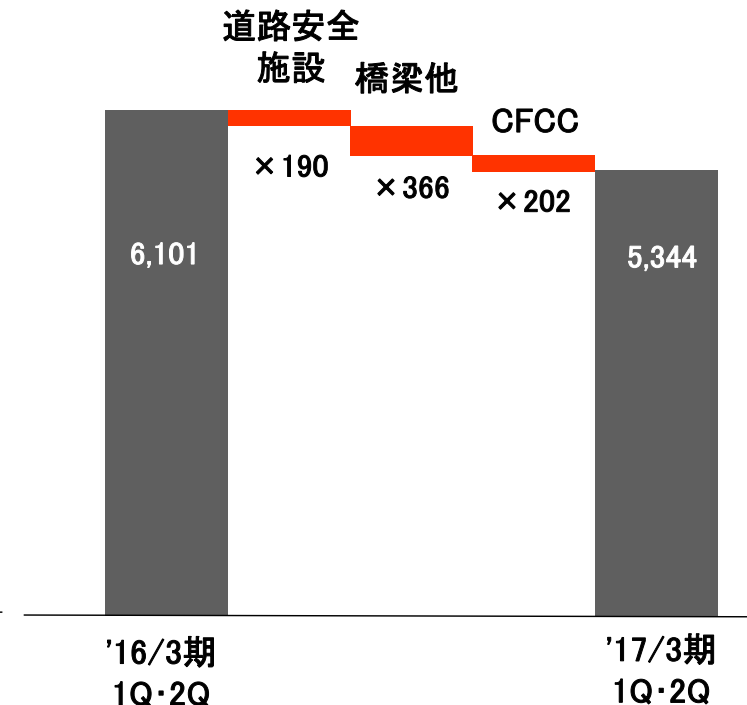
鋼索鋼線



スチールコード



開発製品



セグメント別の状況(営業利益)

鋼索鋼線: 海外エレベーターロープの増収により増益

スチールコード: ワイヤソーの売上計上に伴い増益

開発製品: 海外防災製品およびCFCCの減収に伴い減益

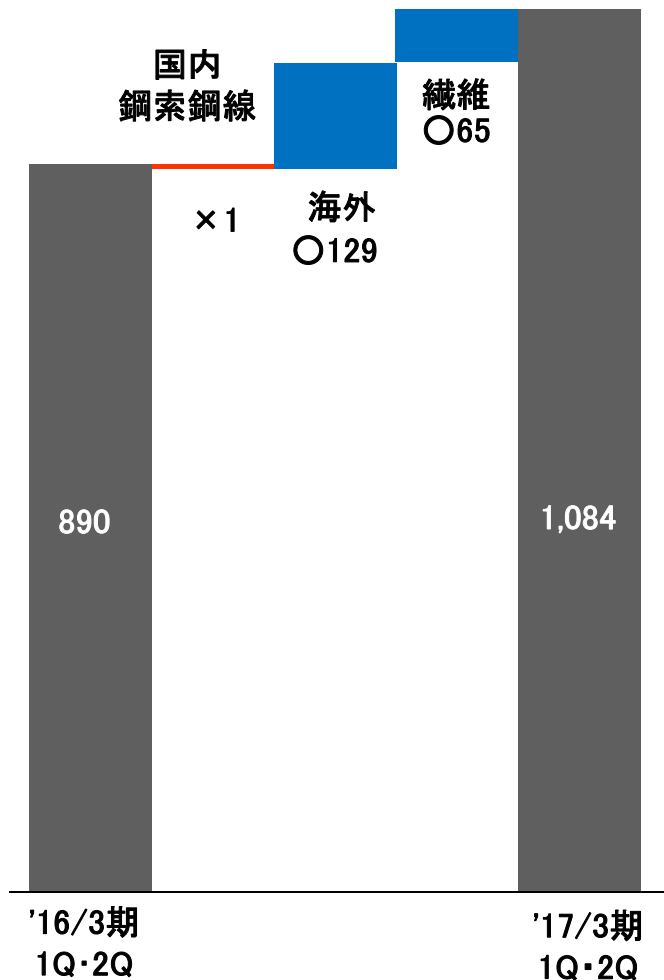
(金額: 百万円)

	16年3月期 第2四半期	17年3月期 第2四半期	前年同期比	
			金額	(増減比)
鋼 索 鋼 線	890	1,084	+194	(+21.7%)
スチールコード	275	840	+565	(+204.9%)
開 発 製 品	127	△607	△734	—
不 動 産	35	174	+139	(+389.3%)
そ の 他	177	193	+16	(+8.6%)
合 計	1,507	1,684	+177	(+11.7%)

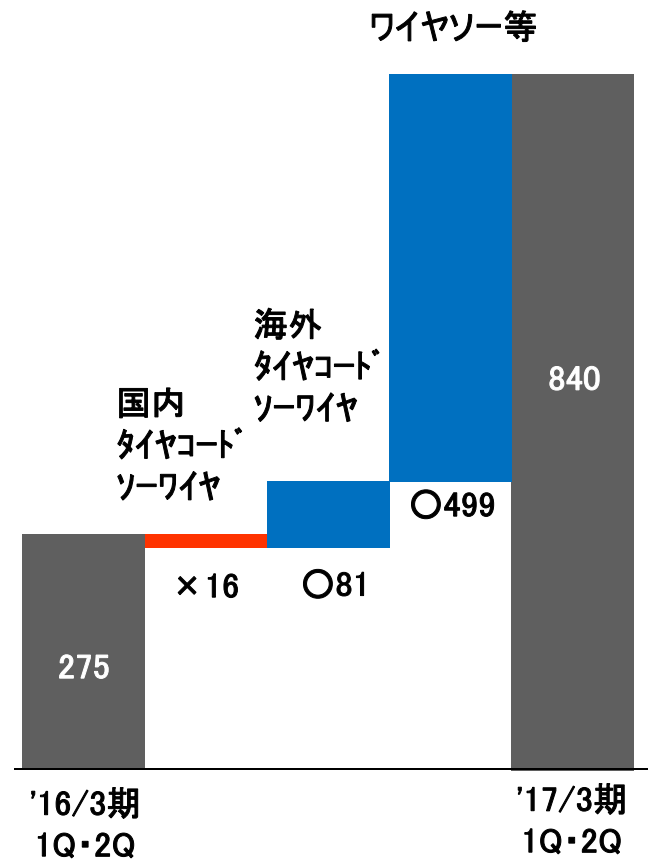
増減要因分析(営業利益)

(単位:百万円)

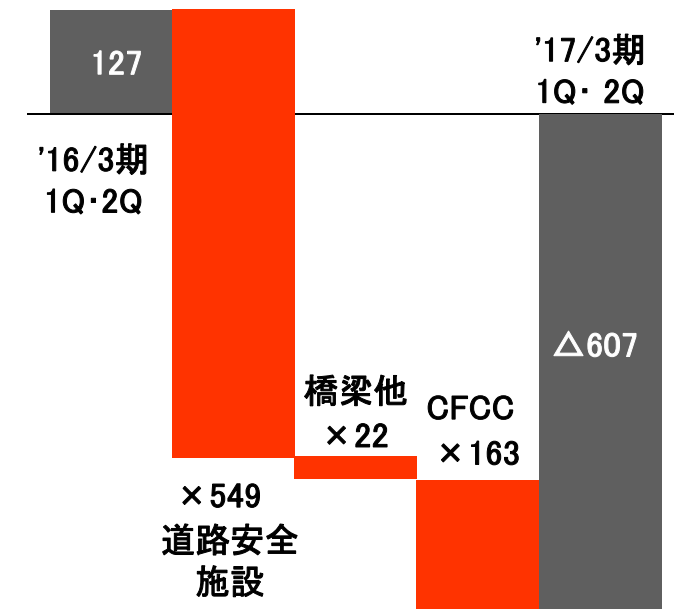
鋼索鋼線



スチールコード



開発製品



キャッシュ・フロー

営業活動：前受金の減少（前期はワイヤーの前受金あり）

投資活動：有形固定資産の取得

財務活動：配当金の支払い△645

（金額：百万円）

	16年3月期 第2四半期	17年3月期 第2四半期
現金及び現金同等物の期首残高	4,649	4,569
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,759	503
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,312	△1,159
フリー・キャッシュ・フロー	1,447	△656
財務活動によるキャッシュ・フロー	△903	△923
その他（為替換算差）	△368	668
現金及び現金同等物の期末残高	4,825	3,659

設備投資の状況

2017年3月期第2四半期
設備投資額

660百万円 (前年同期比△673百万円)

日本特殊合金(株)における精密切削工具用素材の生産能力
増強および、土浦工場におけるワイヤロープの生産能力増強

※2016年3月期設備投資額2,108百万円(キャッシュ・フロー・ベース)

(参考)公募・売出による調達資金の使用状況

(百万円)

セグメント	資金使途	投資予定額	累計投資実績 2016年9月末時点	完了予定年月
開発製品	CFCC生産能力増強	1,296	778	2018年12月
鋼索鋼線	国内生産能力増強	208	60	2017年3月
鋼索鋼線	ITシステム更新	430	9	2018年3月
その他	精密切削工具用素材生産能力増強	399	399	2016年2月
合	計	2,333	1,246	

1. 2017年3月期第2四半期 決算概要

2. 2017年3月期見通し

3. 事業別主要施策の進捗状況

2017年3月期 見通し

CFCC次期プロジェクトの発注遅れ等の影響があるものの、
通期業績見通しについて期首からの変更はない
ワイヤソーの売上寄与により増収増益を見込む

(金額:百万円)

	16年3月期		17年3月期		前年同期比	
	金額	(売上高比)	金額	(売上高比)	金額	(増減比)
売上高	65,281	-	66,000	-	+719	(+1.1%)
営業利益	4,303	(6.6%)	4,400	(6.7%)	+97	(+2.2%)
経常利益	3,021	(4.6%)	3,800	(5.8%)	+779	(+25.7%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,673	(4.1%)	2,700	(4.1%)	+27	(+1.0%)

2017年3月期 セグメント別見通し(売上高)

鋼索鋼線：国内鋼索鋼線の市況悪化により減収

スチールコード：選別受注により中国タイヤコードは減収も、ワイヤソーの売上により増収

開発製品：CFCCプロジェクト発注遅れがあるも、海外の防災製品販売増により横ばい

(金額:百万円)

	16年3月期		17年3月期		前年同期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	金額	(増減比)
鋼索鋼線	28,788	(44.1%)	27,500	(41.7%)	△1,288	(△4.5%)
スチールコード	13,038	(20.0%)	14,700	(22.3%)	+1,662	(+12.7%)
開発製品	14,898	(22.8%)	15,000	(22.7%)	+102	(+0.7%)
不動産	1,272	(1.9%)	1,300	(2.0%)	+28	(+2.2%)
その他	7,284	(11.2%)	7,500	(11.4%)	+216	(+3.0%)
合計	65,281	(100.0%)	66,000	(100.0%)	+719	(+1.1%)

2017年3月期 セグメント別見通し(営業利益)

鋼索鋼線：国内鋼索鋼線製品の売上減に伴い減益

スチールコード：中国高採算製品への受注シフト、ワイヤローの売上により増益

開発製品：CFCCの次期プロジェクト発注遅れにより減益

不動産：コスト減および太陽光発電事業収入増が寄与

(金額:百万円)

	16年3月期	17年3月期	前年同期比	
			金額	(増減比)
鋼 索 鋼 線	2,284	2,200	△84	(△3.7%)
スチールコード	777	1,300	+523	(+67.3%)
開 発 製 品	658	100	△558	(△84.8%)
不 動 産	125	300	+175	(+140.0%)
そ の 他	458	500	+42	(+9.2%)
合 計	4,303	4,400	+97	(+2.3%)

配当方針

17/3期：40.0円の配当を予想

年 度	16/3期	17/3期 予想
配当（年度当り）	4.0円/株	40.0円/株
配当性向（連結）	24%	24%

※当社は、2016年10月1日をもって当社普通株式の単元株式数を1,000株から100株に変更するとともに、10株を1株とする併合を行いました。

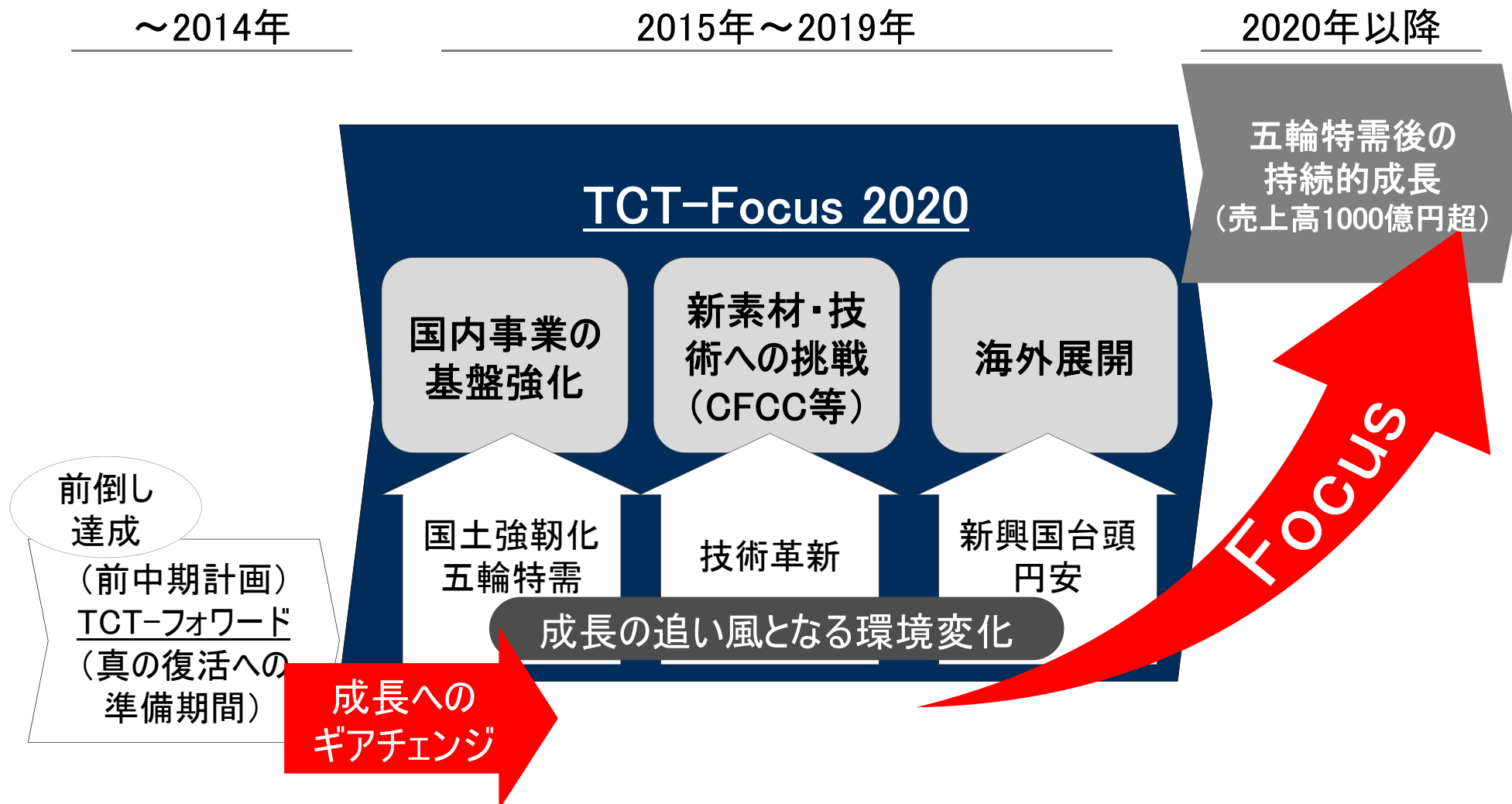
1. 2017年3月期第2四半期 決算概要

2. 2017年3月期見通し

3. 事業別主要施策の進捗状況

中期経営計画の基本コンセプト

五輪特需が終息する2020年以降の持続的成長を見据え、その礎を固める中期経営計画。
この実現に向け、「国内事業基盤の強化」、「新素材・新技術への挑戦」、「海外展開」の3点にフォーカスして、
全事業の活性化に当社グループ一丸となって挑戦する



中期経営計画 “TCT-Focus 2020”を構成する5つの主要施策

鋼索鋼線	F oreign	<ul style="list-style-type: none"> ・セグメントの<u>海外売上比率25%</u>を目指す(15年3月期:17%) <ul style="list-style-type: none"> - <u>エレベーターロープ</u> 中国における当社ロープ採用機の交換需要を捕捉、加えて緊密販売先の拠点拡充(東南アジア・インド等)にも対応する - <u>繊維ロープ</u> 海洋国家のロープメーカーとして125年の業歴で培った技術を活かし、世界の船舶・海上構造物用スーパー繊維ロープ市場に進出する
S C	O utclass	<ul style="list-style-type: none"> ・超高強度ワイヤに極細伸線技術を応用し、<u>ファインワイヤ製品等の高付加価値品</u>を強化し、製品種の拡充と利益率向上を図る
開発製品	C FCC	<ul style="list-style-type: none"> ・スチールよりも軽量・高強度な<u>CFCC®</u>(炭素繊維複合材ケーブル)の特性を生かし、スチールワイヤ製品の置換を図る
	U tilities	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国内で好評価を得ている防災製品を、中央アジア・中東諸国の<u>公共施設・機関</u>に展開し、イスラム圏でのデファクトスタンダード化を狙う
その他	S peed	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社の日本特殊合金は、ニッチではあるが世界的に需要が見込まれる高速精密切削工具用新素材の外販に注力し、<u>5年間で売上高倍増</u>を図る

現段階で進捗する3つの施策についてご説明

鋼索鋼線	F oreign	<ul style="list-style-type: none"> ・セグメントの海外売上比率25%を目指す(15年3月期:17%) <ul style="list-style-type: none"> - <u>エレベーターロープ</u> 中国における当社ロープ採用機の交換需要を捕捉、加えて緊密販売先の拠点拡充(東南アジア・インド等)にも対応する - <u>繊維ロープ</u> 海洋国家のロープメーカーとして125年の業歴で培った技術を活かし、世界の船舶・海上構造物用スーパー繊維ロープ市場に進出する
S C	O utclass	<ul style="list-style-type: none"> ・超高強度ワイヤに極細伸線技術を応用し、<u>ファインワイヤ製品等の高付加価値品</u>を強化し、製品種の拡充と利益率向上を図る
開 発 製 品	C FCC	<ul style="list-style-type: none"> ・スチールよりも軽量・高強度な<u>CFCC®</u>(炭素繊維複合材ケーブル)の特性を生かし、スチールワイヤ製品の置換を図る
そ の 他	S peed	<ul style="list-style-type: none"> ・子会社の日本特殊合金は、ニッチではあるが世界的に需要が見込まれる高速精密切削工具用新素材の外販に注力し、<u>5年間で売上高倍増</u>を図る

1. 北米工場の立上げ完了。ミシガン州知事を招いて10月に開所式を開催
2. 新アメリカ大統領就任による北米インフラ投資拡大に期待
3. 初の量産案件であるインドネシア送電線プロジェクトの工事遅延により、次期受注は今期第4四半期以降へ
4. エジプト、インド、マレーシア等世界各地で拡販活動を展開。来期以降に急拡大する見通し



開業式に参加した日本側役員・スタッフ、現地スタッフ



(左から)スタイドル運輸長官、当社社長、スナイダー州知事、グレース博士

防災製品の海外拡販 進捗状況

1. CIS圏

- カザフスタン: 11月に工場の操業開始。訪日中のナザルバエフ大統領を迎えて開業式を開催
- ロシア: ソチ等の実績を活かし、現地パートナーとの協力関係を強化。日露経済協力の進展を追い風に同国の急速な経済回復に備える

2. 中東

- サウジアラビア: 5月に完工したデモ施工の高評価を受け、メッカ近郊の本格受注案件の調査・設計完了。現地MOT高官が製品認定のため来日



東京(本社)
(左)当社会長、(右)ナザルバエフ大統領



カザフスタン
(左)カザフスタン法人社長、(中)当社社長、(右)アルマティ市長

Speed

高速精密切削工具用素材の拡販 進捗状況

◆CFCC、防災製品の海外展開加速に加え、ニッチながら子会社の新素材拡販もスピード展開中

1. 5月から稼働した新工場は、試作・量産体制ともに順調なスタート
2. 海外の新規先開拓も進捗し、新規先からは高評価を受けている。売上高は順調に積み上がっていく見通し
3. 国内外の見本市に出展しており、今後海外を含め積極展開を図る



回転工具用超硬押出丸棒素材



タイで開催された金属加工の見本市(METALEX)

当社グループが目指す中期経営計画最終年度の姿

●定性的目標

2020年以降の持続的成長にフォーカスし、その礎を築くべく、「トータル・ケーブル・テクノロジーの追求」によって、グローバル市場での競争力強化を図り、より一層社会に貢献できる企業価値の高いエクセレントカンパニーとなることを目指す

●計画最終年度の定量目標(20/3期) [2015年5月発表数値]

売上高	900億円以上	海外 売上比率	25%以上 (例年13%の約2倍)
営業利益	78億円以上 (15/3期実績の倍)	EBITDA	100億円以上
ROE	14%以上 (財務体質改善との両立を目指す)	D/Eレシオ	0.6以下 (ROEの維持との両立を目指す)

●2016年3月期実績(参考)

ROE	海外売上比率	EBITDA	D/Eレシオ
12.4%	15.9%	64億円	1.33

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に記載された予測、予想、見込みその他の将来情報は、現時点で当社が把握可能な情報および一定の前提または仮定に基づくものであり、今後、経済情勢をはじめ、当社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、大きく異なる可能性があります。